

進路指導部便り

令和7年11月21日

第6号

東京都立七生特別支援学校長

黒澤 一慶

11月も終わりに近づき、より一層寒さを感じられる季節となりました。感染症の流行する季節でもあります。うがい、手洗いや寒さ対策をして健やかに過ごしましょう。

今回の進路指導部便りは、高等部2年生の現場実習報告と福祉の進路選択・決定に関する事例について掲載しております。また、今月も進路指導個別面談日を設けております。進路に関する悩みごとや相談ごとについて、お気軽にお申し込みください。

高等部2年 現場実習報告

高等部2年生は、10月から11月にかけて現場実習を行いました。現在も体験中の方やこれから行う方もいます。2年生は、これまでインターンシップ（2日間・教員の引率）を1年生の3学期、2年生の1学期の計2回行いました。「インターンシップ」と「現場実習」の大きな違いは、教員の引率がなくなることと、実習期間が3日間から10日間と長期間になる点です。より卒業後に近い環境での実習を行っていきます。

その中で、今回の実習のテーマは、「確かめる・広げる」でした。2回のインターンシップで自分に合う仕事や事業所を見つけた中で、本当に自分に合うのかを「確かめた生徒」、2回のインターンシップでは、自分に合うものを見つけることができなかったり、もっとたくさんの事業所を経験したりするために「広げた生徒」と、生徒個々に合わせたねらいの中で実習を行いました。実習を終えた生徒たちからは、

「一人での実習で緊張した・寂しかった」、「七生の先輩が声をかけてくれて更衣室を教えてくれた」
「一人で通所できた。帰宅報告も初めてだったができた」、「朝の電車が学校に行くときより混んでいてビックリした」
「初めての人に挨拶や質問、相談をするのが緊張した」、「初めは緊張したけど、慣れた」、「給食が美味しいかった」
「来年もここで実習をしたい」、「将来ここで仕事をしたい」、「来年は先輩がやっていた接客もやってみたい」
など、様々な感想がありました。

今回の現場実習から最終日に評価会が行われます。評価会では本人からの感想だけでなく、事業所の方に実習中の様子、本人の強み・課題などをお話いただきました。

実習後には、学校で面談も行います。強みや課題を保護者や福祉園職員と共有し、今後の目標設定や進路について話をします。特に課題については、3年生の「(進路先を)決める」実習に向けて改善できるチャンスとなります。強みをより確かなものにし、課題は日々の学習の中でできるようにしたり、「〇〇するとできる」などの支援方法を見つけていきます。1年後に一人一人が自分に合う、納得した進路先を選ぶためにこれからも取り組んでいきます。

進路指導個別面談のお知らせ

12月も進路指導主任及び進路専任による進路個別相談日を設けています。お子様の進路に関する悩みごとや相談ごとについて、保護者、七生福祉園職員の方が相談できる機会です。どうぞ、お気軽にお申し込みください。時間は1回につき40分程度です。12月の相談日は19日(金)です。相談を希望される方は、下記の申し込み票を御記入の上、12月2日(火)までに御提出ください。

-----きりとり-----

〈進路個別相談 申し込み票〉

12月19日(金)の進路個別相談に申し込みます。

(小・中・高) 年 組 呉童・生徒名

保護者・担当者名

御希望の相談時間 ①9:30~ ②10:30~ ③11:30~

第1希望 第2希望 第3希望

進路選択・決定の事例（福祉編）

Cさんのプロフィール

- ・愛の手帳2度（18歳の手帳更新で2度の判定となった）
- ・自宅は京王線沿線で、電車とバスで通学（中2から段階的に一人通学の練習を行い、高等部から一人通学）
- ・保護者の希望はB型事業所又は仕事のある生活介護（卒業後はとにかく仕事をさせたい。B型希望が強い印象を面談で受けた）
- ・本人は、働く意欲はまだなく、「これをやるよ」と指示を受ければ素直に取り組む
- 環境が合い、支援を受けることができれば仕事中心で頑張れる
- ・練習によって一人での公共交通機関を利用ができそう（移動支援を利用しており、公共交通機関には慣れている）

高1インターンシップ

- ・市外の多機能型事業所（生介・B型・移行）
- ・京王線と京王八王子駅からのバスで通所（保護者の見守り）
- ・仕事面は問題なく、ピッタリ。
- ・京王八王子駅からバスに乗る難しさが課題（バス停から多方面のバスが出る）

高2インターンシップ

- ・市外の多機能事業所 1年次と別。（生介・B型・移行）
- ・モノレールで通所（保護者の見守り）
- ・仕事面は問題なく、ピッタリ。
- ・電車も乗り換えなく大丈夫そう。
- ・工賃が東京都の平均を少し下回る点が保護者は気になる。

高2現場実習

- ・市外の多機能事業所（生介・B型）
- ・工賃と距離で検討し、新たに候補とした事業所
- ・仕事面は、本人のできる内容であるが立ち作業による疲労感で帰宅後は爆睡していた
- ・立ち作業に対応する体力が課題

高3現場実習

- ・「高2インターンシップ先」で定員に空きがあるということで3年生の実習先として選択。選んだ理由は、以下のとおり。
 - ①通勤による負担を感じ、仕事に影響が出ることを避けることができる。（乗り換えがないため、本人も安心）
 - ②本人が負担なく続けられる仕事が3か所の中でどこかを考えた。
 - ③工賃は本人が頑張るモチベーションの1つではあるが、高額でなくてもまずは働いてお金を稼ぐ経験をできれば良い。その中で、もっと働きたいとなった時に相談していくことを決断。
- ・実習を通じて、「B型で受け入れ可」の評価をもらい、卒業後、通所へ。

本卒業生の進路指導を振り返って

①本人主体での進路指導の重要性

- ・働くのは本人であることを再確認したケースであった。進路に関する面談は本人が参加する場合としない場合があり、どうしても保護者の希望が強くなってしまうことがあります、「働くのは誰なのか?」、働く本人が意思決定をできるように支援することが重要となります。
- ・実習時の様子を本人に確認する方法としては、本人の話す感想の他に「朝は意欲的に家を出ようとしているか」、「帰宅後の疲れた様子はどの程度か」、「実習中の話を家でしている時の様子」などがあります。

②スマールステップの重要性

- ・卒業時点での本人の能力や適性に応じて進路先は決めていきます。5日間などの決められた期間は、100%の力で実習に参加することができます。しかし、卒業後は、5日間では終わらず、毎日となります。その中で、100%の力を続けることはできるでしょうか。実習中、8割程度の力でもできる仕事内容、8割程度の力でも評価をしてもらえる進路先を探すことも重要な進路選択となります。

卒業後も本人の成長や変化に合わせて、働く場は変えることができます。